

### 第三回高専 I T 教育コンソーシアム運営委員会議事録

1. 平成 18 年 2 月 23 日 (木) 14 時 00 分～17 時 30 分
2. 会場：キャンパスイノベーションセンター、4 階・高専機構ブース
3. 参加者：

陣内 靖介	北九州高専 校長
新田 義純	国立高専機構 企画課課長補佐
笹岡 久行	旭川高専 電気情報工学科
村本 充	苫小牧高専 理系総合学科
金子 淳	秋田高専 人文科学系
佐藤 浩	鶴岡高専 総合科学科
須田 猛	茨城高専 物質工学科
金寺 登	石川高専 電子情報工学科
仲野 巧	豊田高専 情報工学科
松尾 賢一	奈良高専 情報工学科 (成田代理)
岩田 淳	松江高専 一般人文科学科
山田 健仁	徳山高専 情報電子工学科
片山 英昭	舞鶴高専 電気情報工学科
勝浦 創	新居浜高専 生物応用化学科
今井 一雅	高知高専 電気工学科
白濱 成希	北九州高専 電子制御工学科
豊平 隆之	鹿児島高専 情報工学科
[オブザーバ]	小川 信之 岐阜高専 専門基礎

4. 司会：今井運営委員長 (高知)
5. 議題と議事内容：( ) 内は資料番号

#### 5.1 挨拶

運営委員会の開会にあたり、陣内代表 (北九州) より挨拶があった。挨拶の中で、高専 IT コンソのこれまでの経緯についての説明や、高専機構教育 FD 委員会の下部組織としてコンソーシアムの活動進展に期待する旨が述べられた。

また、新田高専機構企画課課長補佐より、機構から旅費の支給を行い、運営委員会の会場の手配をおこなった経緯が述べられた他、コンソーシアムの活動に期待し今後の支援方法を検討していく旨の挨拶があった。

#### 5.2 3 部会関連の報告と議題

##### 5.2.1 「IT 教育調査研究部会」(資料 1、2)

資料 1 に基づき、仲野部会長 (豊田) より IT 教育に関するアンケート内容と方法について提案があった。アンケート項目については、LMS 利用状況、WebClass、プラットフォームに対する要望、予算等を盛り込むという原案に対して、コンテンツに対する要望事項、e-Learning 教材を介した単位互換の可能性についても項目に盛り込んでほしいとの要望があった。また、アンケートの目的を明らかにするため、項目や質問内容を整理してはとの意見があった。アンケート対象を全員とするか IT 教育担当者のみを対象にするかについては三部会長で相談のうえ決定することになった。

岐阜高専でも同様のアンケート (紙) を実施しているが、岐阜高専が実施したものはマルチメディア利用について広範囲に調査するものであることから、IT コンソのアンケートでは e-Learning に特化し、サーバ、LMS の利用について調査し、棲み分けを行うことになった。

アンケート項目については内容をまとめた上で、3 月中に実施し、案内は陣内代表が行い、詳細は仲野部会長がメーリングリストで行うこと、アンケートには Xoops を利用することが承認された。また、アンケート対象はコンソーシアム加盟校だけでなく全高専としてはとの提案があり、了承された。

この他、仲野部会長より Moodle4Xoops を利用した e-Learning の可能性についても言及があった他、各高専でばらばらのプラットフォームを利用した場合、教材の共通化などに問題があるので、LMS の共通化を図りたいとの意見に対して、LMS を一本化は困難ではないかとの意見があった。

コンテンツ利用による単位互換の可能性についての議論では、日程調整の必要性、必修・選択、担当校の負担等課題点が挙げられ、今後もコンソーシアムで検討を続けることになった。

### 5.2.2 コンテンツ部会（資料2）

資料2に基づき、金寺部会長（石川）より平成17年度のコンテンツ部会の活動内容が報告された。

#### (1) コンテンツ開発支援について

メディア教育開発センターのコンテンツ開発企画に協力し、「COCET3300」が開発され、高い評価を受けている。今年度は「ソフトウェア開発におけるプロジェクト開発とプレゼンテーション」をメディア教育開発センターの協力を得て開発中であること、平成18年度からメディア教育開発センターにおいてはコンテンツ開発を公募しないことが報告された。ITコンソーシアム独自のコンテンツ開発に向け、「化学教育における理論と実験のためのインターネット教材の開発」企画を機構に推薦しているが、開発実現のための財政支援の検討が急務であることが報告された。

#### (2) 教育素材共有の推進について

教育素材の提供状況については、学校で偏りがある。コンテンツのダウンロード件数は安定していることから、継続的な教育素材ニーズがあることが報告された。今後更に教育素材共有を推進する必要があるが、その一助としてダウンロードのランキングを公表してはとの意見が出され、今後検討されることになった。

#### (3) IT教育支援協議会コンテンツ部会報告

今年度3回開催されたコンテンツ部会で議論された、効果的な教材開発のためのインストラクショナルデザイン導入の必要性、財政支援、人材育成、支援組織、著作権関連の情報提供等 e-Learning とコンテンツ開発における課題が報告された。また、コンテンツの共有化・再利用方法として NIME-glad の利用が紹介され、高専 IT 教育コンソーシアムでも了承を得られた教材については LOM をつけ NIME-glad からアクセスできるよう設定することになった。

### 5.2.3 教材流通部会（資料3）

資料3に基づき、村本部会長（苫小牧）より平成17年度の活動報告として著作権の許諾申請、著作権に関する調査、啓蒙活動に関する報告があった。許諾申請に関しては、苫小牧高専における数学教材開発における許諾申請例が紹介された。今年度の活動として今年度の活動を継続すること、現代 GP の教材作成に関する許諾申請に関しては積極的に協力する旨の発言があった。

この他、参考情報として社団法人日本複写権センターの利用について案内があった。

### 5.3 著作権関係について（資料4）

資料4に基づき村本教材流通部会長（苫小牧）より高専での IT 教育で留意すべき点について説明があった。

### 5.4 COCET3300 についての報告（資料5, 6）

資料5, 6に基づき、岩田委員（松江）より平成16年度開発された COCET3300 の開発・利用状況について報告があった。今後利用拡充を図るため IT コンソーシアムでも広報を行うほか、NIME にリーフレットを各校高専英語科あてに発送を依頼すること、中学生へ PR することが提案された。

### 5.5 全国高専インターネット放送局プロジェクトの報告

今井委員長よりプロジェクトについて報告があり、現在30高専が参加するプロジェクトになっており、配信元は今までは高知高専だけであったが、全国の高専に広げていきたいとの発言があった。

### 5.6 メーリングリスト(webclass,jgn2)の運用状況について

今井委員長（高知）より、既設している二つのメーリングリストについて報告があった。

(1) WebClass の利用に関するリスト： e-Learning の LMS の WebClass を活用するユーザグループの情報交換の場となっている。

(2) jgn2 の利用に関するリスト： JGN2 による高専間 VLAN による利用を推進し 30Mbps 回線で高知高専、米子高専、松江高専の3高専を接続しての遠隔講演を全国の高専で初めて行った。

この他、次世代キャンパス無線 LAN のメーリングリストを立ち上げたいとの意見や、他に情報交換用のメーリングリストを立ち上げてはどうかとの意見があった。ただし、ML 運営には司会者が必要であるとの意見が出された。

### 5.7 メールマガジンの発刊について

今井委員長（高知）より、メールマガジンについてこれまで2号を発刊したこと、3月上旬に発行予定

の3号の準備状況に関して報告があった。3号については各部会から情報を募ることとなった。

#### 5.8 来年度の高専IT教育コンソーシアムの活動について（資料7、8）

資料7、8に基づき岩田委員（松江）より、12月の高専IT教育コンソーシアムコアメンバー打ち合わせ会(2006/12/2)議事要旨と、運営委員会から提出した高専IT教育コンソーシアム活動支援に関する要望書の説明があった。

陣内代表からは教育・FD委員会でのITコンソーシアムの支援に関する審議はこれから行われること、新田課長補佐からは現段階で予算措置については確定できないが、予算措置実現のために活動計画提出の必要性があるとの助言があった。

全体での議論ではまず、活動の中心となるコンテンツ開発について次のような意見が出された。

- ・高専独自で行う場合、公募方法、選出方法、予算の執行方法、完成後の利用方法について検討する必要がある。
- ・教材開発を促進するためのITコンソーシアムが中心的役割を果たすべきである。
- ・コンテンツ開発を業者に発注するのではなく、50万円程度で高専教員が開発してはどうか。
- ・呼び水的な意味で、ある程度まとまった額の開発費を準備する必要がある。
- ・成功事例をつくりたいのでやる気と能力のある人にサポートするべき。
- ・学生にコンテンツ開発を研究テーマとして与えてはどうか。
- ・共通テスト（数学）が行われる予定があることから、数学学習用コンテンツ開発が必要である。
- ・ダウンロードのランキングの上位者を表彰するという形で、開発者の励みになるような仕組みが必要である。

コンテンツ開発に関する議論の後、平成18年度には、3部会で提案された活動を推進することに加えて、下記について運営委員会全体で組織的に取り組むことが承認された。

- (1)高専IT教育コンソーシアムの活動計画を立案し、それに沿った予算申請を行うこと。
- (2)コンテンツ開発費用として400万円（200万上限×2テーマ程度）と会議費予算措置を教育・FD委員会に要望すること。そのための企画書を3月中に立案すること。
- (3)上記(2)のテーマとして、来年度分については、高専間で汎用的な利用が見込める教材の開発を優先する。例えば、実施科目である化学と数学の教材が有望である。数学共通テスト用自学自習用コンテンツについて、村本委員が開発グループを立ち上げ、検討を開始する。
- (4)ポスト現代G Pプロジェクトに向けての取り組みとして科研費の申請を目指すこと。

#### 6. 閉会の挨拶

陣内代表（北九州）より、閉会の挨拶があった。

会議メモ：勝浦（新居浜）  
文責：岩田（松江）、金子（秋田）

#### 〔配付資料〕

- 1 IT教育調査研究部会「高専のIT教育に関するアンケート内容と方法について」
- 2 コンテンツ活動部会活動報告
- 3 教材流通部会報告
- 4 独立行政法人メディア教育開発センター発行「IT活用教育と著作権」
- 5 独立行政法人メディア教育開発センター発行「CO CET3300」リーフレット
- 6 亀山太一、青山晶子、岩田淳、大谷浩、武田淳、平岡禎一、森和憲、南優次、森岡隆、全高専生のためのWeb英単語学習システムの開発、平成17年度高専教育講演論文集、pp. 151-154 (2005.8)
- 7 高専IT教育コンソーシアムコアメンバー打ち合わせ会の要旨
- 8 高専IT教育コンソーシアム活動支援に関する要望書